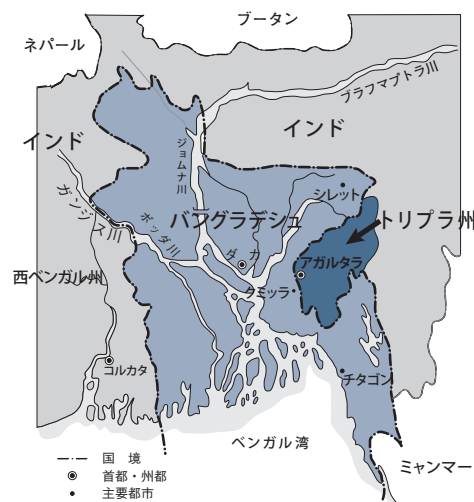


インド・トリプラ州 —もうひとつの「バングラデシュ」

村山真弓

バングラデシュはインドが好きではない。インドは強圧的な態度で、ガンジス川の水を上流で奪い、不要な時は放流してバングラデシュに干ばつや洪水をもたらすと思われる。そしてインドもバングラデシュのことは好きではない。一九四七年の印パ分離独立までは、インドの一部(東ベンガル)



だったのに、また何より一九七一年に独立できたのはインドの全面的支援があったからなのに、その恩を忘れて反印感情を抱いていると見ている。インドの首都ニューデリーでは、バングラデシュはとにかく貧しい国で、そのためインドに不法移民やイスラーム過激派を送り込んでいっているというイメージが一般的だ。また分離独立でインドに残った片割れ、西ベンガル州は、ベンガル文化の中心コルカタが西ベンガルにあること、植民地期にムスリムに比べて、いち早く経済社会的に優位なポジションを取ったヒンドゥー教徒の優越感ゆえか、東ベンガルを一段低く見ている。そんな訳で、バングラデシュが大好きなインドもあると知った時はとても驚いた。それはインドのトリプラ州のことである。一九四九年インドに併合されるまでトリプラは藩王国だった。インド・モンゴル系のトリプリ人が支配した王国の範囲は現バングラデシュの一部まで及んでいたらしい。そのため昔からベンガル人との交流は盛んで、王朝の公用語はベンガル語で、詩聖タゴールの才能を最初

に認めたのがトリプラ王だったという話を、トリプラのベンガル人は誇りを込めて語る。分離独立によってベンガル人、特にヒンドゥー教徒のトリ

プラへの大量移住が始まった。またバングラデシュの独立戦争の際には、一〇〇万人近くが難民となってインドに逃れた。そのうち、四分の三が西ベンガル州へ渡り、つぎに多かったのがトリプラ州の一四〇万人である。これは当時のトリプラの人口に匹敵する人数で、それがどれだけ大変なことだったか、トリプラで会った人が口々に語ってくれた。難民への手厚い奉仕は、彼らが故郷を同じくする同胞だと思つたことが大きい。トリプラに接するバングラデシュの三地域、クミッタ、チャゴン、シレットはそれぞれに独特な方言や生活習慣を持つのだが、トリプラのベンガル人は、この同郷意識を今でも強く持っている。婚姻関係を結ぶ時などは、同郷者のなかから、つまりクミッタ出身者同士、チャゴン出身者同士の家庭間で決めるそうだ。現在ベンガル人はトリプラ人口の七割を占める。

トリプラ州がバングラデシュ独立戦争の記憶をいかに大事に考えているかは、二〇一〇年に同州がその記念公園建設を発表したことに現れている。公園のなかにはインド中央政府の渋い顔を無視して、バングラデシュ建国の父故ムジブル・ラフマンの彫像も設置される予定である。実際、独立戦争時にはバングラデシュ臨時政府があつた西ベンガル州が政治的な本部だったが、軍事的な本部はトリプラ州に置かれていた。人口約三十七万人の小さな州都、アガルタラの交差点には、戦争で使用された戦車が今も記念に飾られている。トリプラ人のこのような感情を、私が見る限り、直接関係した個人はともかく、国としてのバングラデシュは忘れてしまったように思える。開園式に列席したバングラデシュのモニ外相（女性）は、トリプラ人の大歓迎ぶりに、感激のあまり涙をこぼしたそうだ。予期せぬ喜びだったのだろうか。

トリプラのバングラデシュに対する非常に好意的姿勢には、州としての計算がないわけではない。バングラデシュが「インドに囲まれた」国であるならば、トリプラは「バングラデシュに囲まれた」州なのである。しかしトリプラの特別なところは、これを劣等感に転化せず、むしろ利点として強調し、バングラデシュとの関係強化に生きる道を見出そうとしていることである。バングラデシュの領

土を通過してトリプラに物資調達、搬出を可能にするよう、一九九〇年代半ば以来、トリプラ州は中央政府に要請してきた。しかし反印感情に曇つたバングラデシュの反発は強く、中央政府にもそれを押してまでという積極性はなかった。そこでトリプラが取つた戦略は、バングラデシュの企業を投資セミナー等に頻繁に招待し、彼ららつてトリプラが魅力ある市場、投資先になりうることを理解してもらふことだった。二〇一〇年一月のバングラデシュ・ハシナ首相訪印を契機に、ようやくトリプラの悲願が実現した。バングラデシュが、同国のチャゴン港などを通じてトリプラへの物資輸送を認めることに合意したのである。

トリプラの二貫した姿勢は、互恵を前提とするのではなく、一方的にでも好意を示し続けることで相手の心をいつか動かすということのようだ。押し付けがましくないトリプラの人と自然の美しさは、ちよつと異質で強い印象を残した。



トリプラ・バングラデシュ国境。アガルタラとバングラデシュの首都ダカを結ぶ直行バス